

救える命





1分にひとり、子どもが命を落とす

マラリアは子どもの世界三大死因の1つ。
1分に1人の子どもの命を奪っています。

マラリアから回復しても体力を奪われた子どもの中には、学校へ通うことも困難なことも。
その結果、子どもたちの未来に欠かせない、「学ぶ」機会を奪われた子どもも多くいます。

しかしマラリアは予防も、治療も可能な病気です。
適切な診断と治療を受けられるだけで、子どもの命を守ることができます。

Malaria No More Japanは一人でも多くの子どもの命を守るために、活動を続けています。

ごあいさつ

マラリアノーモアジャパン(MNMJ)は、3大感染症の1つであるマラリアの撲滅のために普及啓発活動を行うことを目的に、2012年10月に発足いたしました。

ニューヨークに本部があるMNMJの、アジアにおける唯一の支部ですが、アフリカのみならずアジアにおけるマラリアの脅威に対してどのように対応できるかということその活動目的の主眼においております。

アフリカにおける蚊帳の配布活動あるいは初期治療キットの配布など現地での支援活動も行っておりますが、今後はマラリアの汚染地域であるアジアの途上国において調査研究活動を行い、日本からどのような支援を行うことができるか、具体的な政策提言なども行っていくつもりです。活動の詳細は報告書をご覧ください。

マラリアのような感染症が人間の健康と経済活動に及ぼす計り知れない影響に思いをいたすとともに、日本の皆様の幅広いサポートを得て、日本で唯一のマラリアに特化したNPO法人として今後とも日本発の効果的なマラリア対策活動を行っていく所存ですので、どうかご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



NPO法人Malaria No More Japan 理事長 神余 隆博
事務局長 水野達男

目次

| | | | |
|----------------|---|---------------|----|
| ごあいさつ/目次/メッセージ | 3 | メディア掲載 | 9 |
| MNMJの活動 | 4 | 企業・団体からの主なご協力 | 10 |
| 現地支援活動 | 5 | 会計報告 | 11 |
| 調査研究・政策提言 | 6 | 組織概要・役員一覧 | 11 |
| 普及啓発活動 | 7 | | |

メッセージ

オスマン・サンコンさん



1949年、ギニア共和国(西アフリカ)生まれ。
1972年、ギニア大使館設立の為駐日大使と来日。その後外務省を退職し再来日。
全国各地で講演活動。ギニア日本交流協会顧問としてボランティア活動中。

アフリカから遠く離れ、マラリアのない世界を目指し活動をしている団体が日本にも出来たこと、本当に嬉しく思います。このMalaria No More Japan (MNMJ)が2013年に行ったイベントに私も参加し話をする機会をいただきましたが、たくさんの方が、真剣に私の話を聴いてくれたことは本当に印象深いものでした。

2年前に私の姪がマラリアで亡くなったのですが、本当に辛く、悲しい出来事でした。姪がマラリアに罹ったとき、初めは近所の小さな病院ではマラリアと診断されなかったのです。症状が悪化して大きな病院に連れて行った時にはもう手遅れだったようで、なぜもっと早くマラリアとわからなかったのかと、悔やまれてなりません。

日本に比べると、アフリカの医療事情はまだ十分ではありません。MNMJの活動を通じて、少しでも多くの子どもが、マラリアに罹らず、健康に長生きできる社会が実現できることを期待しています。

マラリアは、蚊帳を使用することで感染を防ぐことができ、マラリアに罹っても初期治療で助かる可能性は高くなる病気です。私の大好きな国、ここ日本では、マラリアの脅威はありません。でもぜひみなさんもMalaria No More Japanを通じて、アフリカのマラリア予防のお手伝いをしてください。

姪のように、マラリアで亡くなる子どもをこれ以上増やさないためにも。

Malaria No More Japan (MNMJ) の活動

マラリアのない世界をつくる。それが私たちの使命です。

マラリアによって命を落とす人は年間約65万人。犠牲者の8割は、貧しい国の5歳以下の子どもです。

Malaria No More Japan (MNMJ)はアメリカに本部を置く同団体の日本支部として2012年に設立された、日本で唯一のマラリアに特化したNGOです。

現地での支援活動だけでなく、政策提言・調査研究、そしてマラリアについて普及啓発活動を3本柱に活動を行っています。

1 現地支援活動

予防可能なマラリアからひとりでも多くの子どもを救うために。

MNMJは現地NGO、本部、研究機関などと連携し現地の支援活動にあたっています。

2 調査研究・政策提言活動

現地の支援を実施するためには、継続的に現地の情報や世界各地の援助動向を知る必要があります。

MNMJは継続的な情報収集と蓄積を経て事業に反映させると同時に、援助動向に対し提言活動を行うことで、より現地のニーズに即した、援助の実現を目指します。

3 普及啓発活動

マラリアはかつて日本に存在しましたが今では「遠い国の事」と思われがち。

マラリア制圧のための支援活動そして調査研究・政策提言にはマラリア支援の必要性を、多くの人に知ってもらうことが必要。

MNMJではスポーツや音楽などを媒介にマラリアを知ってもらう機会を提供します。

世界の動向 (WHO「World Malaria Report 2013」より)

世界保健機関によれば、2015年を期限とするマラリア抑制のグローバル目標達成に向け、世界各地でのマラリア制圧に向けて様々な活動が実施されています。

報告データによると、2000年にマラリアが存在していた103カ国中59カ国で、マラリア制圧を定めたミレニアム開発目標(MDG)を達成しています。2000年から2012年の間に、世界全体のマラリア致死率は、全年齢層合計で42%低下し、5歳未満児については48%低下しました。この年間低下率が今後も持続すれば、2015年までにマラリアの致死率は全年齢層で52%の低下となり、5歳未満児は60%の低下となると予想されています。

しかし、2011年から2012年にかけて、マラリア致死率の低下ペースは減速傾向にあります。これはマラリア対策に投入された資金の減少によって殺虫剤処理蚊帳(ITN)の普及率が横ばいとなったことが原因と考えられています。

そのため、マラリアの危険にさらされている何百万人の人々が、ITNや屋内残留性噴霧(IRS)、診断テスト、アルテメシニン誘導体多剤併用療法(ACT)などの対処手段を利用できていません。この結果、2012年には、2億7000万件の発症と、62万7000人の死者が発生したと推定されています。

マラリアの発生件数と致死件数を減らすという国際的課題を達成するためには、マラリア抑制への資金を増やし、対処手段を拡大することが喫緊の課題となっています。



現地支援活動 アフリカで蚊帳の配布および初期治療キットの配布を実施

蚊帳の配布活動@タンザニア

タンザニアにおいてマラリアは高度1800メートル以上の地域を除いて全国規模で深刻です。マラリアにかからないようにするためには、蚊に刺されないようにすることが大切です。マラリア原虫を媒介するハマダラ蚊は、主に夕方から明け方に吸血します。

そこで、予防策として、蚊帳の中で就寝することはとても有効です。

MNMJはFacebook上での広報連動キャンペーン「1 LIKE for 1 LIFE」(「10,000

いいね!」達成で蚊帳を配布)を実施、2,000張を2地域に分けて配布しました。



2013年9月 第1回配布 於:モシ地域(北部)
配布数:500張
*モシ地域は、水田が多いため、比較的马ラリアの罹患率が高い地域です。直接、住民の方々、子どもたちに蚊帳を配り、使い方や蚊帳使用の効果を説明しました。

2014年6月 第2回 蚊帳配布 於:タンガ地域(南東部)
配布数:1500張
*タンザニアでは子どもたちの半数以上が耐久性のある蚊帳の中では寝ていないと推定されています。現地からの報告を基に、特に蚊帳の配布が行き届いていない3つの病院へ届けました。



タンザニアのアルーシャに蚊帳製造工場をもつA to Z社様と住友化学(株)様よりキャンペーンにご賛同いただき、10,000人分の蚊帳2,000張を寄贈いただきました。10,000人が蚊に刺されることを心配することなく、安心して眠れる環境を提供できます。

初期治療キット配布@ザンビア

アフリカ南部に位置するザンビアは、POWER OF ONE® キャンペーンの最初の支援対象国。

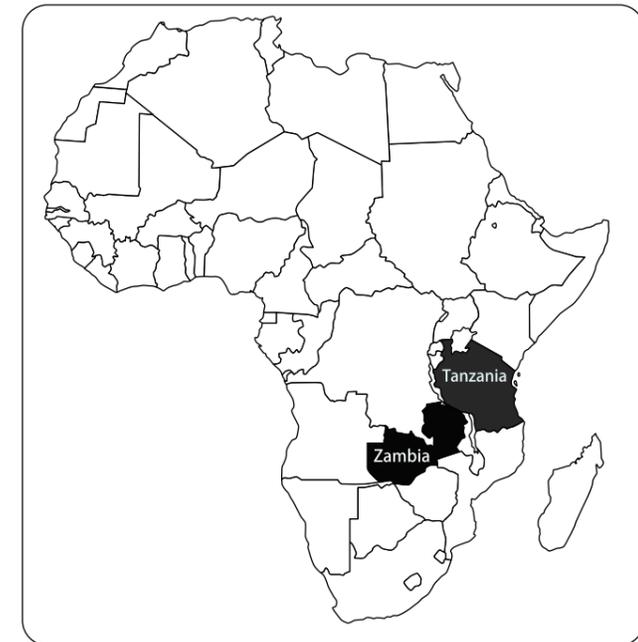
人口約1400万人のうち、マラリアの危険にさらされている割合は100%。マラリアに関連した幼児の死亡率は40%にのぼります。

ザンビア政府、現地NGOと連携し、必要な場所へ、必要な分だけ初期治療のための簡易診断テスト・抗マラリア薬キットをMalaria No More 米国本部を通じ届けます。



photo by: Esther Havens Photography

*同事業は米国本部が主体となって実施されています。寄付金額に応じてJohn Snow Internationalがキットを調達・空輸手配し、現地ではザンビア政府運営の流通ネットワークによって病院やクリニックへ必要な分が配布されます。配布の最新情報は、本部を通じてMNMJへ報告されます。



POWER OF ONE(R) 特設サイト:<http://www.mnmj.asia/po1/>

蚊帳の配布事業はFacebook上の広報キャンペーン「1 Like for 1 Life」と連動して実施されました。「POWER OF ONE®」は2014年4月末より実施、2014年7月現在も継続して行われています。

調査研究・政策提言

調査・研究、ネットワーキングを通じて
マラリア制圧に向けた国際的取り組みに貢献しています

設立以来、Malaria No More本部と連携しながら
国際的なマラリア及び関連する感染症に関する情報を収集するだけでなく、
国内外の関連機関、専門家とも連携することで
情報の収集に努めています。

集められた情報の一部はホームページでも公開することで、
マラリアに関する情報の蓄積を行います。

そして、関係する団体などと政策提言やメッセージ発信します。

政策提言・メッセージ発信

関係する団体などと共に政策提言を行うほか、記者向けの勉強会
などを通じて、マラリア制圧のためのメッセージを発信しました。

- 2013年9月5日 RBM特別代表 ベルギー アストリッド
王女妃殿下「マラリアー日本は健全な
経済投資を」ご寄稿
- 2013年10月19日 緊急市民シンポジウム「エイズ・結核・
マラリア＝三大感染症は克服できる」
に参加(共催)
- 2013年12月16日 市民社会の共同声明「エイズ・結核・
マラリア＝三大感染症の克服に向けて
引き続き国力に見合った最大限の貢献
を」に参加
- 2014年4月25日 WHO World Malaria Report 2013 (要約)
を日本語へ翻訳。ホームページに掲載



(写真右)アジア太平洋地域においてマラリア制圧に取り組むAPMEN (Asia Pacific Malaria Elimination Network) 事務局コーディネーター Dr. Maxine Whittaker (写真中央) 来日の際に日本の関連機関へ紹介、賛同を働きかけました。
(写真左) ロールバック・マラリア (RBM) パートナーシップ特別代表としてマラリア対策への投資を呼びかけるベルギーのアストリッド王女(ORoll Back Malaria Partnership)。2014年より日本もOECDドナー国として理事会メンバーとなっています。

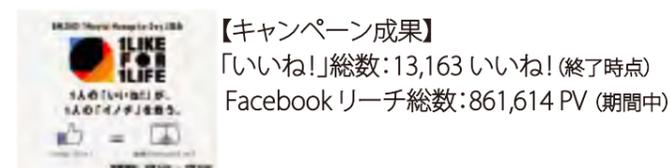
普及啓発活動

「マラリアって何?」「どんな支援が必要なの?」
様々な機会を通じて情報を伝え、支援の輪を広げます

【現地支援事業と連動した広報活動】

8/20 World Mosquito Day 記念 1 Like for 1 Life キャンペーン実施

8月20日「世界モスキート・デー」を記念して、
アジア地域を対象にFacebook上のキャンペ
ーンを行い、「10,000いいね!」を募りました。
集まった「いいね!」の数、「5いいね!」につき1
張の蚊帳を合計2000張、タンザニア国内マ
ラリア発生地域に配布しました。



【キャンペーン成果】
「いいね!」総数: 13,163 いいね! (終了時点)
Facebookリーチ総数: 861,614 PV (期間中)

キリマンジャロ山頂で「13,000いいね!達成」Thank you Flag



水野専務理事が、アフリカ大陸最高峰、
タンザニアのキリマンジャロ登山に
チャレンジしました。道程では、様々な国
からの登山者と本キャンペーンの達成を
山頂で祝いました。

2013年9月19日 朝7:12 (登山開始5日目)
ギルマンズ・ポイント制覇
標高 5,681m

蚊帳の有効性



深刻な症状をヒト・社会へもたらすマラリアで
すが、予防・治療が可能な疾患です。
マラリア原虫を運ぶハマダラ蚊の活動期間が
夕刻から朝方にかけて。感染の原因の一つが、
蚊帳に入らず無防備に寝ている間に、刺され
ていることが挙げられます。
予防には、蚊帳の使用、殺虫剤散布が有効で
す。2008年から2010年にかけて、国連、企業、

そして途上国政府の働きかけで約3億3000万帳
の蚊帳が無償または安価有償配布されました。
その結果、マラリアによる死亡者数は、この5年
間で一気に30%減少しています。
しかし今なお現場では蚊帳は不足しています。
特に免疫力のない子どもたちが蚊帳の中で安
心して寝るために、MNMJでは蚊帳を現場へ届
けています。

POWER OF ONE(R)

POWER OF ONE®は、Malaria No
More 米国本部が、マラリア治
療薬メーカーNovartis等の協力
のもと2013年秋よりスタートし
たキャンペーン。
1ドル(100円)でマラリアの簡易
診断と初期治療薬キットを子
どもひとりに届けられます。

日本からもサポートするために特
設ウェブサイト(日本語)を2014年
4月末開設、寄付を募っています。
目標額は100万円(6月末現在 187,384円)
です。

POWER OF ONE(R) 特設サイト: <http://www.mnmj.asia/po1/>



タンザニア視察

MNMJでは、現地への細やかな支
援を目指し、定期的に現地視察を
行い情報収集を行っています。
特に、タンザニアのウサリバーに
ある診療所では、マラリア感染と
死亡者数について連続的な観測
を行っており、これまでの患者数の
推移から長期残効型蚊帳の有効
性を確認してきました。

◆ウサリバーの診療所を訪問(9月)
医師 ママヒ氏と面談。最近のマラリア感染者数につ
いて意見交換。
2012年で、死亡者は2名。感染者数も300名以下に。こ
れまでの感染者数は2002年に3,529名、2007年1,772
名だったことより予防、治療の成果が観られることを
確認した。雨季の最終月(2013年5月)でも、マラリア患
者数は、月間15名、死亡者は0名であった。

◆A to Z社の蚊の研究所を視察(9月)



ウサリバー診療所のサムエル・サラキヤ医師
(2011年まで勤務)。本診療所へは、2002年から
長期残効型蚊帳が継続的に配布されており、
2002年、2007年と、定点観測を行っています。

定点観測結果

[2002年] [2007年]
患者数 (A:5歳以上): 2564(100%)→1019(40%)
患者数 (B:5歳未満): 965(100%)→ 753(78%)
総患者数 (A+B) : 3529(100%)→1772(50%)



Power of One 「簡易診断テスト・抗マラリア薬」キットについて



photo by: Esther Havens Photography

POWER OF ONE®キャンペーンでは、みなさん
からの寄付によって「簡易診断テスト・抗マ
ラリア薬キット」が届けられます。このキットは簡
易診断テスト(RDT)とアルテミシニン併用療
法(ACT)で構成されています。
RDTは、血を一滴、器具にたらすことで、たった
数分でマラリアかどうかを判断できる、優れた
もの。現在このRDTは各国政府や世界保健機構
(WHO)によって使用を推奨されており、2013年
だけで2億回分近くのRDTが世界各地で配給

されました。キャンペーンでは、アリア社の協
力を得てザンビアにRDTを届けています。
さらにキットのアルテミシニン併用療法(ACT)
は、RDTによって確定された患者を治療するた
めに、昔から使用されてきたアルテミシニンと有
効期間がより長い別の薬剤と組み合わせられてい
ます。キャンペーンは、国際的なヘルスケア企業
であるノバルティスの協力を得て小児用製剤を
届けています。

普及啓発活動

「マラリアって何?」「どんな支援が必要なの?」
様々な機会を通じて情報を伝え、支援の輪を広げます

【イベント開催・運営】

4/25 世界マラリア・デー イベント 「ひとりのチカラ 世界の命」開催

マラリア制圧に向けて国内外で取り組む4団体で、4月25日の世界マラリア・デーに合わせチャリティーイベントを銀座のレストランで開催。

世界唯一のチャリティ女性奏者であるアナンゴのミニライブ&体験談、マラリア対策専門家のトークを通

じ、楽しみながらマラリアと途上国の現状を学べるパーティ形式のイベントに120名超が来場、大変な賑わいとなりました。

参加費の一部をPOWER OF ONE®キャンペーンへ寄付いただきました。



【日時】2014年4月25日 19時～21時 【会場】The Garden Ginza

【主催】公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund)、特定非営利活動法人日本医療政策機構 (HGPI)、公益財団法人日本国際交流センター (JCIE)/世界基金支援日本委員会 (FGFJ)、特定非営利活動法人Malaria No More Japan (MNMJ)



写真左より: 司会を務める伊藤聡子JCIE執行理事、入り口風景、会場風景、水野達男MNMJ専務理事 (C) World Malaria Day 2014



写真左より: 閉会挨拶をする黒川清HGPI/GHIT代表理事、アナンゴ、堀井俊宏大阪大学微生物病研究所教授 (C) World Malaria Day 2014

2014年 世界マラリア・デー 記念

ゼロ・マラリア賞 (Zero Malaria Award) 創設

MNMJは2014年から新たな顕彰事業「ゼロマラリア賞」を設置しました。

マラリア制圧のために取り組む個人、団体を表彰します。具体的な支援事業の実施に留まらず調査研究、情報発信、またマラリアという言葉の認知度向上のためのアイデア作りなどに取り組む個人など、マラリアに関わるあらゆる分野の個人、団体を対象とします。

記念すべき第1回ゼロ・マラリア賞は、長年にわたる活動を評価し、公益社団法人日本青年会議所へ贈られました。

【授賞理由】

長年の国際青年会議所による蚊帳をアフリカの子供にも送るキャンペーン「Nothing But Nets」に協力、日本全国各地で寄付活動やチャリティ企画によって支援金を集め、2008年から2013年度の約6年で63,350,676円が、2013年には蚊帳18,000張に相当する18,874,626円の募金を国際青年会議所へ寄付されています。

表彰は、銀座のレストランで行いました世界マラリア・デーイベントにて行いました。



(C) World Malaria Day 2014

第2回目以降の賞の選考は、MNMJ内に選考委員会を設置して行います。今後は選考委員会宛の自薦・他薦の応募者の中から受賞者を内定し、団体内での手続きを経て、毎年4月25日の世界マラリアデーイベントにて表彰・発表を行います。今後、同賞を公益目的事業の一つとして育成、発展させていく予定です。

メディア掲載

2013年度は、支援と結びつけたイベントや新たに創設されたゼロ・マラリア賞など多くの活動がメディアに取り上げられました。メディア等での掲載やSNSを使った情報発信を通じて、マラリアに関する情報を伝えていきます。

【掲載一覧】

- 2013年8月1日号 『医業経済』P34,35
- 2013年10月号 『近代中小企業』P.4~7
- 2013年9月30日 『グロービス インタビュー「バリュークリエイター達の戦略論」』(前編)
- 2013年10月3日 『グロービス インタビュー「バリュークリエイター達の戦略論」』(後編)
- 2014年5月7日 ハフントンポストジャパン記事
- 2014年6月号 「非営利団体の対ドナー戦略～ブランディング・マーケティングの活用～」
- ローランド・ベルガー『視点』98号、p.2-6
- 2014年6月号 「2014世界マラリアデー・チャリティーイベントひとりのチカラ世界のイノチ」
- 『Japan Medical Society』P.22~27

【プレスリリース掲載一覧】

◆POWER OF ONE(R)キャンペーン

PR Timesにプレスリリース掲載(6月30日現在 合計699PV)

プレスリリースが東洋経済オンラインやプレジデントオンラインなど29社の媒体に掲載

Facebook広告掲載(6月30日未現在 合計370,837リーチ)

特設ウェブサイト(6月30日未現在 合計2,299PV)



◆ゼロ・マラリア賞設置

PR Timesにプレスリリース掲載(6月30日現在 合計350PV)

プレスリリースが30社の媒体に掲載

【企業内研修・講演一覧】

- 2013年7月 T社、L社、日経BP「アフリカ会議2013」
- 2013年8月 H社、H社、JICA、グロービス新大阪「真剣ダイアログ第10回 夏休み特別編」
- 2013年10月 O社
- 2013年11月 T社、A社、M社、明大、東北芸術工大、グロービス「G1経営者会議」/パネル
- 2013年12月 B社、L社、A社
- 2014年1月 L社、G社、グロービス名古屋新春セミナー
- 2014年2月 北海道大、H社
- 2014年3月 M社
- 2014年4月 T社、S社
- 2014年5月 長崎大、明治大
- 2014年6月 K社、H社

企業・団体からの主なご協力

(2014年6月30日現在)

FOUNDER

エクソンモービルジャパン合同会社
住友化学株式会社

PARTNER

ALMA
Malaria No More
Malaria No More UK
ROLL BACK MALARIA Partnership

支援企業

大塚製薬株式会社
住商アグロインターナショナル株式会社
住友化学園芸株式会社
住友商事株式会社
大日本住友製薬株式会社
田岡化学工業株式会社
レインボー薬品株式会社
ロート製薬株式会社

活動協力

◆プロボノ*としての協力
株式会社ローランド・ベルガー
株式会社トライポッド

◆翻訳ボランティア
東日本漢語教師協会

◆物資提供
A to Z Textile Mills Limited

*プロボノとはラテン語で「公共のために」の意味。専門家がその専門知識や能力を活かし、無報酬で提供するサービスを意味します。

プロボノの声



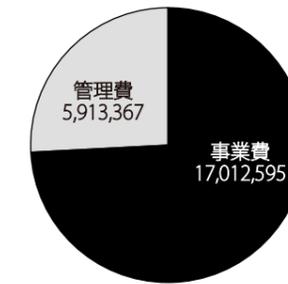
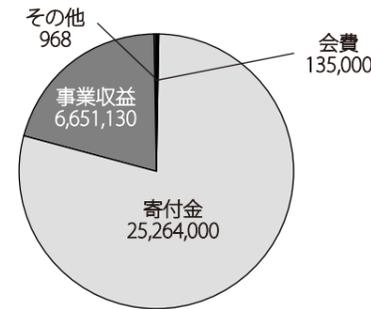
ローランド・ベルガーは、ドイツを出自とする経営コンサルティングファームです。この度、Malaria No More Japanさんの事業計画策定をサポートさせて頂きました。「サポート」と申しましたが、プロジェクトにおいては寧ろ私たちが学ばせて頂くことが多く、大変感謝しております。また、その過程で、Malaria No More Japanさんの数多くの「強み」に気付かされました。特に、「マラリア」という課題に特化している非常にめずらしい団体であることは、確固たる強みであると同時に、存在意義でもあります。マラリアは発展途上国において今でも多くの患者さんを苦しめています。この、「解決できる、すべき、しかしまだできていない」課題を本気で解決しようとする団体が現れたことに胸を高鳴らせると同時に、微力ながらご支援させて頂いたことに感謝申し上げます。

株式会社ローランド・ベルガー
プロジェクトマネージャー 中里航平さん

会計報告(2013年度)

収入: ¥ 32,051,098

支出: ¥ 22,925,962



前期繰越金: - ¥ 2,007,334
次期繰越金: ¥ 7,117,802

組織概要・役員一覧

組織概要

正式名称: 特定非営利活動法人Malaria No More Japan
英語名: Malaria No More Japan
代表理事: 神余隆博
設立: 2012年10月26日
法人格取得: 2013年2月28日
事務局スタッフ数: 4名(非専従職員を含む)
事務局所在地: 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-7-4 秩父屋ビル8階
TEL: 03-3230-2553
Email: info@mnmj.asia
URL: http://www.mnmj.asia

役員一覧

代表理事: 神余 隆博 / 関西学院大学副学長
専務理事: 水野 達男 / 前住友化学株式会社 ベクターコントロール事業部 事業部長
理事: 穴田 武秀 / エクソンモービル・ジャパン合同会社社長
 : 渋谷 健 / コモンズ投信株式会社社長
 : 高尾 剛正 / 住友化学株式会社副社長
 : 高木 正洋 / 長崎大学名誉教授
 : Martin Edlund / Malaria No More CEO
監事: 長島 美紀 / 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター コーディネーター
 : 菅原 邦彦 / 公認会計士

Malaria No More Japanへの支援制度

MNMJは、多くの団体、個人の方と活動を行い、またアフリカ、アジアで1人でも多くの子どもがマラリアでイノチを落とさない世界を作るため、現地での支援活動以外に国内外で新たな活動を想像したいと考えています。

一人でも多くの方にマラリアのない世界のために参加していただける「場」づくり。これこそが私たちMNMJの存在意義でもあります。

2013年度の寄付実績

◆寄付者: 個人144名 / 企業21社
個人・団体の皆様から幅広いご支援をいただいています。個人からの寄付の中にはPOWER OF ONE(R)キャンペーンへの指定寄付を含みます。

◆会員: 13名
MNMJの組織・活動を支え、運営の議決権を持つ方々です。

MNMJでは会員・サポーター・ボランティアの参加を随時募集しています。参加方法について詳しくはMalaria No More Japanのウェブサイトをご覧ください。

今すぐできるMNMJへの支援

マラリアは、アフリカやアジアの子どもを脅かす深刻な問題です。蚊を媒介するこの感染症は、発展途上国の子どもの三大死因の1つ。実に、1分にひとりの子どもが亡くなる、悲惨な状況が続いています。

しかしそのマラリアは予防も、治療も可能な病気です。

100円あれば



初期治療のための「厚膜診断テスト・抗マラリア薬キット」が届けられます

1,000円あれば



マラリア予防に必要な蚊帳1張が届けられます

Malaria No More Japanへのご支援は金融機関・オンラインから可能です。

<金融機関からのお申し込みの場合>

◆三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)
麹町支店(支店コード616)
口座番号: 普通 0149342
口座名義: 特定非営利活動法人Malaria No More Japan 理事長 神余隆博

◆ゆうちょ銀行

口座番号: 00100-8-386178
加入者名: Malaria No More Japan

<オンラインからのお申し込みの場合>

◆Just Givingを利用する
詳しくはサイトでご確認ください。
http://justgiving.jp/p/1372

(注)ご寄付は、寄付金控除の対象にはなりません。ご了承ください。領収書を希望される場合、事務局にご連絡ください。
(注)お振込みの際にご連絡先(お電話番号)をご確認ください。

詳細はMalaria No More Japan事務局まで(03-3230-2553/info@mnmj.asia)